

# 戦国時代への 誘い

## 「上ノ郷城跡」

### 第1次発掘調査結果

神ノ郷町城山にある、市指定史跡「上ノ郷城跡」。この城跡では今まで詳細な発掘調査が行われておらず、かつてこの地にあった上ノ郷城がどのような城であったかを知る手がかりとしては、言い伝えや文献などに頼るしかありませんでした。

そこで、神ノ郷町の皆さんの熱心な保存活動を受け、「史跡としての価値確認」として、昨年度から数年間の予定で発掘調査を行っています。この第1回目の発掘調査が今年の2月に終了しましたので、皆さんにその結果をお知らせします。



諸国古城図「上ノ郷城」 広島市立中央図書館・浅野文庫蔵

「上ノ郷城」が、いつ誰によって築かれたのか不明ですが、今から約400年以上前の戦国時代に「鵜殿氏」が居城していたことは、多くの文献や資料に記されています。鵜殿氏は、熊野地方(今の三重県から和歌山県のあたり)出身で、駿河(今の静岡県)の今川氏に属していました。鵜殿長照が城主であった永禄5年(1562)、今川氏の敵であった松平元康(後の徳川家康)によって攻められ、上ノ郷城は落城しました。この戦いは、日本で初めて忍者が活躍した合戦といわれています。落城後は、松平氏方の武将、久松俊勝が入城しました。この

### 「上ノ郷城跡」とは



①発掘現場を見学する蒲西小児童

ときに、城域が拡張されたと伝えられています。その後、天正18年(1590)、徳川家康の関東移封に伴って、廃城になったものと推測されています。

### 建物の土壇跡見つかる

今回の調査は、いわゆる本丸跡と呼ばれている丘頂平坦部千500㎡のうち、ほぼ中央の約200㎡について実施しました。

調査の結果、建物の基盤と思われる土壇(東西長約9m・南北長不明・高さ約50cm)が検出されました。土壇の周りには石組みの一部が残っていて、その他の土壇にも石組みが施されています。と思われる。



②調査区域全景(手前右が土壇)